

千年の森便り No.169

2017.08. 24

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8月20日(日)曇

参加会員は秋元、伊藤、及川、大原、久我夫妻、坂本、田島、根本、福島、松田、真鍋、山口、そして東大奈良研究室で菌類と森の植生の共生関係を研究中のHelbertさんが柏から参加し、総勢14名。

橋を渡るなりベニグチやアカヤマドリの出迎え、降り続いた雨のせいか、通路脇も、千年広場周辺もホテイ岬、シイ・カシ林も夏のきのこがいっぱい、千年の森14年半を通じて、最もきのこの多い一日となりました。



この日は中央博イベントの関係で参加者少ない事もあり、全体活動の作業を中止し、きのこの観察と松田さんを囲んで勉強会、昆虫調査など楽しみました。昼は松田シェフ丹精のご馳走をいただき、降りそうで降らない天候にも恵まれ、セミの合唱を聞きながら、きのこ三昧の楽しい一日でした。(真鍋)

〇きのこ観察・採集・学習

今年の夏は異常気象で、きのこも不作かと思いつつ、私達は、吊り橋を渡って、千年の森に足を踏み入れた途端、驚愕の歓声をあげました。ベニグチはじめ、夏のきのこが、無数に生えていたのです。

毎年この時期は、あまりきのこは生えないのですが、殆ど期待していなかったのですが、いざ観察してみると、35種を発見出来ました。そのうち46%がイグチ科、31%がテングタケ科、6%ベニタケ科と、シイ・カシ林に共生する3科のきのこで占められていました。観察したきのこで最も多かったのはベニグチで、ベニグチと植生の共生関係を研究するインドネシアからの留学生の、ヘルベルトさんは大喜びでした。

また、特大のハイカグラテングタケは、抜け落ちやすいツバが綺麗に残っており、最高の標本でした。残念なのは、期待していたタマゴタケが、一つも見あたらなかったことです。来月の定例会は、腐生菌のキノコも加わり、大いに期待できると思われます。(松田) --キノコ目録と画像は次ページに



アカヤマドリ



ベニグチ



セイタカイグチ



ハイカグラテングタケ

2018/8/20 千年の森のきのこ

キシメジ科	ナラタケ属	ナラタケモドキ
キシメジ科	モリノカレバタケ属	モリノカレバタケ
ポロテウム科	ヒロヒダタケ属	ヒロヒダタケ
テングタケ科	テングタケ属	カバイロツルタケ
テングタケ科	テングタケ属	テングタケ
テングタケ科	テングタケ属	コテングタケモドキ
テングタケ科	テングタケ属	ドクツルタケ
テングタケ科	テングタケ属	コシロオニタケ
テングタケ科	テングタケ属	ウスキテングタケ
テングタケ科	テングタケ属	ヘビキノコモドキ
テングタケ科	テングタケ属	キリンタケ?
テングタケ科	テングタケ属	コナカブリテングタケ
テングタケ科	テングタケ属	ハイカグラテングタケ
テングタケ科	テングタケ属	シロオニタケ
ナヨタケ科	ナヨタケ属	ナヨタケ
イグチ科	キイロイグチ属	キイロイグチ
イグチ科	キイロイグチ属	ハナガサイグチ
イグチ科	イグチ属	ヤマドリタケモドキ
イグチ科	イグチ属	コガネヤマドリ
イグチ科	イグチ属	アカヤマドリ
イグチ科	イグチ属	キアミアシイグチ
イグチ科	イグチ属	ニセアシベニイグチ
イグチ科	イグチ属	イロガワリの仲間
イグチ科	イグチ属	イグチ属種
イグチ科	イグチ属	イロガワリの仲間
イグチ科	ニガイグチ属	ブドウニガイグチ
イグチ科	ニガイグチ属	ミドリニガイグチ
オニイグチ科	キクバナイグチ属	キクバナイグチ
オニイグチ科	キクバナイグチ属	セイタカイグチ
オニイグチ科	キクバナイグチ属	アシナガイグチ
オニイグチ科	ベニイグチ属	ベニイグチ
ベニタケ科	ベニタケ属	ベニタケ属種
ベニタケ科	チチタケ属	キチチタケ
イボタケ科	イボタケ属	ボタンイボタケ
ホコリタケ科	ノウタケ属	オオノウタケ



ナラタケモドキ



モリノカレバタケ



コテングタケモドキ



カバイロツルタケ



ヤマドリタケモドキ



ミドリニガイグチ

ハイカグラテングタケの事

ベニイグチやアカヤマドリなどの鮮やかなキノコが多い中で当日、異彩を放っていたのはハイカグラテングタケでした。

何しろ大きくて手に持つとずっしりとした重量感がありました。傘の上面も茎にも火山灰でもまぶしたような粉に覆われているのも異様でした。

山溪のカラー図鑑「日本のきのこ」には見開きの2ページに大きな写真で載っている程、目立って特徴がはっきりしているのに正式な名前がついていないらしく、仮称となっています。気象変動の影響などで分布を広げている新顔なのでしょうか？



ハイカグラテングタケと坂本代表(撮影伊藤)

「食べられるらしい」と悪魔のような囁きが何人からか聞こえましたが、私には試食の勇気がありません。灰神楽とは囲炉裏や火鉢の灰の中に残る埋火に湯水を注いだ時、爆発的に水蒸気が発生し、灰も一緒に吹き上げて辺りに撒き散らす事ですが、生活様式の変化で若い人は見た事が無いでしょう。キャンプファイヤーやバーベキューの片付け時に水をかけて消火すれば小規模ながら似た現象が起きます。蛇足ながら灰神楽の三太郎は清水港で鬼より怖い次郎長一家の子分で森の石松と同様にとぼけたキャラクターとして浪曲や三木のり平主演の娯楽映画でお馴染みでした。癪癪持ちで怒ると怖いイメージを持たせる名前かなと思います。(坂本)

OHelbert さんのベニイグチ調査

ベニイグチの調査をしている、東大博士課程の Helbert さんの調査を手伝いました。

今回は、DNA 分析用のサンプルの採取と、発生環境の調査を行いました。分析用サンプルについては、発生したばかりの新鮮な子実体(きのこ)を千年広場の周辺で 15 個採取しました。発生環境としては、植生(高木層のおもな樹種)と、土壌の調査を行いました。



Helbert さんはベニイグチ採取のために、7月の夏のきのこ観察会に続いての参加でしたが、今回は予定していたサンプルの採取ができ、遠路はるばる豊英島まで来ていただいた甲斐がありました。(福島)

Helbert さんから後日次のメッセージが寄せられました。

Last fungi investigation was wonderful. We can find many fungi, especially Beniiguchi. I'm really gratefull and indebted to everyone, especially Fukushima-san and Manabe-san.

This is my comment for last fungi investigation.

"Beniiguchi, and other mushroom

I'm grateful that I have opportunity to join fungi investigation again this time. I could find many Beniiguchi. I learned about other kind of mushroom that I never see before (Noutake, Yamadoritakemodoki, etc.). I can taste the deliciousness of many edible mushroom, made by Chef Matsuda. And learned and experience so many things just in 1 day. I really hope I can join again next time. Thank you very much Helbert

この度きのご調査に再び参加させていただきましたことを感謝しています。私は沢山のベニグチを見つけることができました。また今まで見たことのなかったその他のきのこ、ノウタケ、ヤマドリタケモドキなども学びました。松田シェフ丹精の色々な食用きのこの美味しい料理も味わう事が出来ました。僅か一日の中で色々なことを学び経験することが出来ました。次回再び参加できるよう、切望しています。

有難うございました。Helbert

(真鍋訳)

Helbert Doankz さんの Facebook 転載

8月20日 13時03分投稿



At last, Found it!

翻訳「ついに、見つけた！」



Helbert さんは当日昼食後直ぐに Facebook に投稿しました。

「ついに見つけた！」というのは彼の率直な実感です。

7月に柏からベニグチ探しに来て、
空しく空の標本バックを持ち帰りました。

その後8月20日に千年の森で見つけない一心で、
「その日に豊英島で見つからなければ今年は無理かも」との
警告も助言も聞き入れず、

6時の電車で来て、「ついに見つけた！」

それとも

インドネシアの Bangka 島で研究していたベニグチを、
遠く離れた千年の森で「ついに見つけた！」

そのいずれか、両方かは次回本人に聞いてください。(真鍋)

○昆虫観察記録

時々薄日も差しましたが、あいにくの曇り空、虫の姿はちらほら。セミは、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシが大合唱。日差しが出るとセミの声は一層にぎやかになります。帰る時に「カナカナ」とヒグラシが鳴き始めました。虫がよく見られるのはシカ除けネットで囲っている所。ここには花が咲いているのでチョウやハチが訪れ、虫たちのオアシスのような場所です。花にやって来たメスグロヒョウモンは、オスとメスでまったく姿が違ってきます。ヒラヒラとサトクダマキモドキが飛び、止まると葉にそっくり



メスグロヒョウモン♀



メスグロヒョウモン♂



サトクダマキモドキ



キイロスズメバチ

で見つけられません。秋元さんが、オオカマキリがニイニゼミを食べているところを発見！山口さんが、キイロスズメバチが鳥の巣箱の中に巣を作っている場所に案内してくれました。キイロスズメバチは巨大な巣を作るので、小さな巣箱では収まりきらないようです。

(他に観察された昆虫)

ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオヤマトンボ？、ツツレサセコオロギ幼虫、カネタタキ幼虫、アオバハゴロモ、ベッコウハゴロモ、ツマグロオオヨコバイ幼虫成虫、キスゲフクレアブラムシ、クリオオアブラムシ、シマサシガメ幼



オオカマキリ幼虫

虫、オオモンシロナガカメムシ、オオセンチコガネ、コイチャコガネ、キマワリ、サビキコリ、トラマルハナバチ、オオモンクロクモバチ、トゲアリ、シロズヒメムシヒキ、サキグロムシヒキ、キタキチョウ、ムラサキシジミ、ヒメジャノメ、ルリタテハ、コムスジ、ホシベッコウカギバ、シロオビノメイガ、モモノゴマダラノメイガ、セミヤドリガ幼虫(ヒグラシに寄生)、オオゴキブリ (田島)

○野鳥記録

エナガ3+声 メジロ声 ウグイス囀り ヒヨドリ声 ハシブトガラス声 5種

蝉の大合唱で小鳥の声はかき消され、茂った葉で姿は隠れているので先月に続き低調な結果でした。きのこの観察が面白く鳥に集中できなかった事も原因です。

○センサーカメラの画像

島に出入りの人物だけで、動物の写真はありませんでした。

先月の紙面にシカがモチノキの萌芽を丸坊主になるまで徹底的に食害した場面が掲載されましたので、それから2か月後のモチノキの様子を見たところ、新しい芽が再生していて、植物が逆境に耐えて、何としてでも生き抜く力に感動しました。

ただし、この木が周囲の木を押しつけて生長し続けるのは絶望的で、食害と再生を繰り返して最後は力尽きると思います。

○ツチアケビ

マダケ林のツチアケビは2株とも健在で、30個の実をつけていました。

ヒメコマツ柵内のツチアケビ3株のうち、2株は完全に枯れ、1株は枯れていますが、果実3個をつけていました。

3個中1個をDNA調査用にHelbertさんが採取しましたが、8月20日現在2個を残しています。(真鍋)



マダケ林の2株

ヒメコマツ柵内に残る1株

○シカ記念日

入会して1年半、シカ個体数調査に参加しておりましたが一度も姿を見ることがありませんでした。見るのは千年の森便りに載るセンサーカメラの画像でした。そしてその時は、突然やってきました。ギャップ更新地の保護ネット内で植物観察を始めて間もない10時頃に、ドット、ドット、ドットと地面に響く音の方向に目やると、一頭のシカ(体高; 1m程度)がホテイ岬方向から吊橋方向に2~3秒で駆け抜けて行きました。

「シカだ!」と、田島さんと感嘆の声をあげました。その数分後に、最高の瞬間は訪れました。先ほどのシカより、やや大きそうな二頭が同様にホテイ岬方向から現れ、千年広場のネット沿いを北に向かい、一頭はそのまま走り抜けて行きました。もう一頭は開いていた入口から調査地内に入って来ました。囲まれているネットから脱出しようともがき、前足を高々と持ち上げたときは迫力があり緊張しました。頭の高さはネットの上端(1.8m程度)あたりまで上がっていましたが、飛び越えられませんでした。何度か試みるうちにネットがたるみ無事脱出、北東の吊橋方向に走り去って行きました。この間、1分間に満たない出来事でした。久我夫人は6~7m離れ、シカを追い出そうとしていました。私は10mほどの位置で、この千載一遇のチャンスを生かすことができず、ただカメラを手に眺めていました。この日は、昼食後の活動時にも目撃されました。島にいたシカは二、三頭かもしれませんが、川を泳いで渡ってくるシカも、今日は島の周囲に釣り船が数隻出ている、逃げ帰ることもできず隠れていたのかもしれないとの意見がありました。シカを目の前にして写真を撮ることができなく、不甲斐ない思いをしましたが、念願のシカに会うことができ記念すべき日になりました。写真は次回の楽しみにとっておきます。(秋元)

○アヒーショと煮物

昼食時には、松田さんからアヒーショの、坂本さんから煮物の差し入れがありました。偶然どちらも茄子ときのこの料理で、洋風と和風の対比を楽しむことができました。特にアヒーショは出色で、ニンニク風味のきいたオリーブオイルに材料の味が溶け出し、本場のスペイン風にバケットと一緒に食べるとなんとも美味でした。（伊藤）



お知らせ

○9月の定例活動日

9月18日（祝）、9時30分君津市自然休養村管理センターに集合、光環境調査（相対照度調査）シカ個体数調査、環境整備（観察路、ベンチ）、植物・野鳥・昆虫調査、ギャップ林植生調査など計画しています。夏と秋のきのこにも期待できそうです。

○秋のきのこ観察会

秋のきのこ観察会は10月4日（水）です。平日ですがきのこに関心ある方は万障繰り合わせてご参加下さい。実施要領は添付の「秋のきのこ観察会」の通りです。